

野田市立あすなろ職業指導所指定管理者候補者 選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時	平成30年2月15日（木）午後3時から午後3時45分まで
開催場所	野田市役所5階 512会議室
出席委員	副市長（委員長）、企画財政部長、保健福祉部長、行政管理課長、管財課長、障がい者支援課長
欠席委員	総務部長（副委員長）
事務局	障がい者支援課、行政管理課

1 開会

<委員長より開会の言葉>

2 議事

平成29年度（4月～12月）野田市立あすなろ職業指導所業務報告書及び平成30年度野田市立あすなろ職業指導所業務計画書の審査について

<事務局より平成29年度（4月～12月）野田市立あすなろ職業指導所業務報告書及び平成30年度野田市立あすなろ職業指導所業務計画書について一括して説明>

<審議の概要>

○ 業務報告書3ページの①就労支援のための取組について、「工賃向上計画」の内容は何か。

→ 毎年、千葉県へ提出する「工賃向上計画」で29年度の工賃支払額を28年度の平均月額21,877円から25,000円へ向上することを目標とした。

なお、29年度の工賃支払い金額は、平均月額が17,633円に下がる見込みである。自主生産班のパンや手芸品については、新製品の開発により、売上が好調だが、下請け班の箱折作業については、利用者の高齢化による作業効率の低下や受注数の減により、工賃の支払が28年度より低くなるため、全体では下がる見込みとなっている。千葉県全体では、28年度の平均月額13,769円から16,000円へ向上することを目標としており、千葉県の目標値は上回る見込みである。

○ 「工賃向上計画」は何に基づいて千葉県へ提出するのか。また25,000円に上げた理由は何か。

→ 千葉県が策定した「千葉県工賃（賃金）向上計画」に基づき、就労継続支援B型事業所は提出することとなっている。この計画は、国から示された「工賃向上計画を推進するための基本的な指針」に基づき、27年度から29年度までの3年

間の計画を策定したものである。25,000円に上げた理由は、目標値を決して不可能ではないレベルに設定することで、利用者の達成意欲を引き出したい、高めに設定した。

- 業務報告書7ページの人員配置について、生活支援員の正規職員6人全員が29年4月・5月入職となった理由は何か。また、管理運営上配慮していることはあるか。
 - 正規職員6人が29年4月・5月に入職した理由は、職員の法人内異動で2人が他事業所へ異動したことと、2人が3月末で退所したためである。更に28年度末に2人欠員が生じていたため、新たに6人採用した。管理運営上配慮していることは、所長を中心に毎月のミーティングを実施し、職員から意見や悩みを聞き取り、現状を把握することに努めている。悩みや対応が困難な案件は1人で抱え込まないように、所長を中心として職員間でフォローし合いながら対応している。
- 保護者から生活支援員が変わって不安であるといった苦情は無いのか。また10月以降の非常勤の生活支援員が退職となっているが補充しないのか。
 - 心配の声が寄せられたが、生活支援員が増えることにより、より手厚い支援が提供できること、また、あすなろ職業指導所の在籍年数が長い職員がフォローする等によりサービス提供に支障が生じないようにすることを説明し、納得していただいた。10月に退職した非常勤の生活支援員の補充については募集中である。
- 業務報告書13ページの施設の利用状況報告について、生活介護の出席率が就労継続支援B型と比べて低い、どのような理由で利用しないことがあるのか。
 - 生活介護の利用者は、就労継続支援B型の利用者に比べて、支援区分が重い利用者が多いため、通所利用も低くなっている。また、年齢的にも生活介護の利用者は、就労継続支援B型の利用者に比べて、50代や40代の方が多いため、通所利用が低くなっている。
- 業務報告書15ページの収支状況報告について、親の会より一泊旅行に対し補助が出されているが、これは親の会として何に充ててもらうために寄附しているものなのか。
 - 親の会からの寄付金については、利用者に旅行を楽しんでもらいたいという理由でいただいている。利用者に旅行を楽しんでもらうため、班毎に分配した。
- 支出の項目では、どこに対応しているのか。
 - 教養娯楽費に対応している。
- 教養娯楽費の利用者一泊旅行職員負担分とあるが、職員の1泊旅行の費用をこれで支出しているのか。
 - 職員が付き添うので、職員分は宿泊費として支出している。

○ 業務計画書 11 ページの施設の利用計画について、契約利用者数は現状維持となっている。定員が各 20 人なのでこのくらいが限界とみているのか。また、出席率について就労継続支援 B 型が実績よりも低く、生活介護が実績よりも高くなっているがその理由は何か。

→ 契約利用者数については、施設の規模や職員体制を考慮し、現状維持で計画をしている。就労継続支援 B 型の出席率が実績より低い理由として、現在利用者の 1 人が、一般就労を目指すことを目的に、野田市リサイクルセンターに週 1 回出向し事業外で分別作業を行っているが、他の利用者の出向も検討していることから、事業外の作業となるため利用率を低く計画している。

生活介護については、散歩や体操等の余暇活動の充実を検討していることから、利用率の向上を見込み、利用率を高く計画している。

○ 収入の利用者給食費と利用者外給食費の合計が、3,878,560 円になるが、1 食あたり 230 円となっている。支出の方は、1 食あたり 324 円なので、支出給食費の 3,830,000 円の方が大きくなるといけないと思うがどういう関係となっているのか。

→ 収入項目では、利用者は 1 食あたりの単価 230 円とし、年間 2,638,560 円で計上している。利用者外は収入項目の利用者等外給食費収入として、1 食あたりの単価を職員は 350 円、実習生等は 650 円とし、年間 1,240,000 円で計上している。利用者と利用者外の合計は、3,878,560 円となっている。

支出項目では、利用者は給食材料費を、1 食あたりの単価 324 円とし、年間 3,716,928 円及びウォーターサーバー設置費 110,000 円の計 3,830,000 円を計上している。利用者外は給食材料費を、1 食あたりの単価を 324 円とし、年間 1,000,000 円を計上している。利用者と利用者外の合計は、4,830,000 円となっている。

以上より、収入より支出が 951,440 円大きくなっている。なお、不足している部分については、指定管理料から支出している。

<審議の結果>

平成 29 年度(4 月～12 月)野田市立あすなろ職業指導所業務報告書及び平成 30 年度野田市立あすなろ職業指導所業務計画書について承認

3 閉会